

2009年8月12日（水）第8回大会の記録

合併症になら連

糖尿病で「合併症になら連」阿波踊りの会

「合併症になら連」は、糖尿病の方やそのご家族・友人・医療関係者などが、阿波踊りを通じて交流を深め、お互いに助け合い、学びあって、健康な日々を過ごすための会です。毎年、夏の徳島で楽しく踊り、出会いを楽しみ、心身ともにリフレッシュしましょう。



- 会長から
- 第8回大会報告
- 参加された方々の声
- ご支援いただいた皆様
- 第8回大会の1日
- 会と会則



合併症になら連ホームページアドレス
<http://www.dm-net.co.jp/awa/>

2010年8月12日（木）参加者50名募集中

会長から



西村登喜子会長

今年で第8回目を迎えました、糖尿病で「合併症になら連」阿波踊りの会が8月12日開催されました。「合併症になら連」が本場徳島で参加するようになった経緯について、昨年12月にお亡くなりになりました「阿波写楽連」会長・「合併症になら連」顧問の姓億政明様に謹んで哀悼の意を表しますと共に師の出会いから、頂いた温かいご指導、ご援助を想い述べたいと思います。

10年前知人の招きで棧敷席から初めて阿波踊りを観賞いたしました。その時、脳血管障害のお年寄りとボランティアの方々に組織する踊り連「寝たきりになら連」を姓億政明様率いる有名連がサポートされていることを知りました。私は「寝たきりになら連」の趣旨に強く感銘を受け、糖尿病の運動療法や糖尿病から起こる合併症予防の啓発に役立つのではないかと考え「連」の立ち上げを思いつきました。兵庫県内の栄養士仲間にも相談し賛同を得た上で、徳島県内では阿波踊りの神様と謳われ、国内だけでなく米国、カナダなど海外でも活躍されておられた姓億政明様に、厚かましくも知人の紹介で何とかお会いすることができました。そして、私の考えを何度もお話しさせていただき、ご協力の約束を得ることができました。この打合せの様子が徳島新聞に掲載されたことで地元の眼科と内科の医療機関の協力を得られることになりました。そして記念すべき第1回の大会が計画、立案、実施の運びとなり、患者様やそのご家族、医療スタッフを含め50名程が「市役所前演舞場」と「よんでん広場」で踊りを初体験しました。「踊りは健康面で大きなプラスになる。手と足を動かせば阿波踊り。上手に踊ろうと思わなくてもいい。とにかく楽しく前をむいて踊ること」という、姓億さんのお話に気持ちを楽しんで不揃いながらも楽しく踊り今日に至っております。姓億様のご意志を引き継がれた「阿波写楽連」のサポートを得て事故も無く終えることができました。今年は初盆、特に姓億さんを偲び、編み笠に姓億さんの写楽顔のシールを付けて、姓億さんと共に踊りました。

今年は初参加者が半分以上という状態で当初心配しておりましたが、混乱もなく終えられましたことは参加者の皆様のご理解とご協力のお陰と感謝しております。踊りの足も揃って上手になったとの評価も頂きました。参加者同士の交流も図られ皆様に新たな思い出の1ページができたのではないかと思います。

来年もより多くの方々の参加を得て、糖尿病からの合併症の恐ろしさを含めた啓発を更に発信し続けたいと考えております。姓億政明様から頂いた阿波踊りの機会を大切に守り頑張っていこうと思っております。

この度も多くのご支援、ご協力をいただきました企業をはじめ関係各位の皆様にご心より厚くお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

来年の8月12日、また徳島でお会いしましょう

管理栄養士 健康運動指導士
(埼玉県 上尾市)



阿波写楽連長から

第8回“糖尿病で合併症になら連”と一緒に踊って



左東久史連長
(徳島市)

今年も「合併症になら連」阿波踊りの会が、8月12日に開催されました。今年初めての参加された方がたくさんおられるということをご事前の打合せで聞き踊りのレッスンや移動はどうなるのだろう。と思っていましたが、皆が一体となり参加者の方は熱心にレッスンしていただき、今年の参加者の方全員がひとつの“輪”になりすばらしい、合併症になら連が開催出来たと思います。

今年はず年末に亡くなりました姓億政明会長の初盆の年でもありました。以前から参加されていた方はご存知とは思いますが、踊りのレッスンの時は厳しく、踊りの本番になると楽しく踊りをしなさい！と常に教えて貰っていたと思います。阿波踊りは踊り以外に笑顔も必要で、踊っている時はみんな自然と笑顔で楽しく踊っているのを見て、すごく素晴らしい踊り連に仕上がっていました。

又、四国放送のテレビ取材や徳島新聞の取材もあり、参加者の方はいつも以上に緊張がありながらも頑張ってくれたと思います。今年西村会長の提案で街角踊りを取り入れましたが又、違った楽しみ方があったと思います。合併症になら連の皆さんと一緒に感動することが出来嬉しく思っています。

又、来年も今年同様楽しく踊れる事を期待しています。

第9回大会でお会いしましょう。(左東久史)



第8回大会報告

2009年8月 天国の姓億さんの声援を受けて



三角健二事務局長
(東京都)

今年の「糖尿病で合併症になら連」は、楽しい中にも何か寂しさを感じさせるものがありました。

第1回時からすべてにわたりご指導、ご支援いただき、昨年の懇親会にもお元気な姿を見せていた姓億さんに会うことが出来なかったせいでしょうか。昨年12月、姓億さんは、あの有名な写楽踊りのイメージを多くの人に残し天国に旅立ちました。姓億さんは、この世に多くのものを残していかれましたが、我々にとっては「合併症になら連」が、最大のものです。そんなことを考えながら、市役所前演舞場の控えの場で出番を待っていると、鉦・太鼓の音で徐々にボルテージが上がってきました。どこかで姓億さんに「さあ、がんばれ」と背中を押されたような気配を感じ、数千人の観客が見守る演舞場に繰り出しました。15分から20分かけて踊り終えると、汗がびしょりの爽快感です。その後の街角踊りを終えてホテルでの懇親会、今年は特に盛り上がりました。「南京玉すだれ」の皆さんありがとうございました。

懇親会では、また全員で阿波踊りを踊りましたがこんなことも今回が初めてではないかと思えます。本当に、のりがいい人たちが集まった楽しい1日でした。

着付けから踊りの指導まで、何から何までお世話になりました「阿波写楽連」の皆様、本当に有難うございました。来年もよろしくお願いたします。

また、ご支援いただいた企業、団体の皆様ありがとうございました。

人生を楽しく生きたい方、2010年の夏、また、阿波の国で会いましょう。(事務局 三角健二)

参加された方々の声



2 度目の阿波踊り



小幡 誠
(大阪府 高槻市)

西村会長様始め幹事の方々、阿波写楽連の方々ありがとうございました。昨年に続いての参加です。昨年は一抔の不安を抱きながらの参加でしたが、今年は晴々した気持ちで一杯でした。本年は友人二組のご夫婦を誘っての参加。

ホテルに着くと同時に手際の良い阿波写楽連の方々の着付け、踊りの練習、関係者の卓越した進行に何の不安もなく踊り始めることができました。但し先生方のご指導にも関わらず、今年も我流でただただ笑顔を意識して踊ってしまいました。今年は昨年以上に踊り終えてなんと清々しい気持ちと汗、明日に残らない爽やかな疲れ？ 快適な気分が溢れてきました。また、初めてお誘いした二組の両夫婦より喜びの声を聞き、より一層親睦が深まりました。

来年も参加させてもらいます。(小幡 誠)



今年も参加して



小幡 知子
(大阪府 高槻市)

昨年は初参加で必死で踊りました。あゝ楽しかったで終わった感じ。2回目は少し欲がでて、もう少し上手に踊りたいと思いましたが、手に気を配ると足は疎かになり、思うようにはいきません。

でも昨年の懐かしい、お元気そうなお顔に出会うと、改めて素晴らしい企画だと感心します。又踊りの“輪”を広げる友を誘いたくなりました。

来年が楽しみになりそうです。(小幡知子)



ちびっ子たちの真似をして



渡辺 税 直美
(大阪府 藤井寺市)

渡辺 税 直美 (大阪府 藤井寺市) されていた気がします。しかしやはり本番の市役所前演舞場では緊張してしまい、覚えたはずの動きができず、足と手がバラバラになりかけました。でもちょうど目の前にちびっ子達がいて、鉦・太鼓の音にピッタリ合わせてかわいいお手手とアンヨをヤットサーヤットサーと動かしています。「あっ！これだこれだ」と私はその子供達の真似をして踊りました。おかげで調子を取り戻し、その後は大いに楽しみながら踊り続けることができました。

大阪に戻り、お盆で実家に帰ってから妻と私は家族に今回の楽しかった経験を話しました。すると姉と妹が来年は是非参加させて欲しいと何度も私たちにいいました。関係者の皆様、今回参加された皆様、来年は2名増えますので何卒よろしくお願い申し上げます。(渡辺 税・直美)



初めての阿波踊り



上田 幸男
(埼玉県 桶川市)

阿波踊りに参加できると聞いたのは6月初旬のことだった。これまでも、縁があれば見よう見まねで各地の盆踊りに加わった経験もあり、喜んで参加することにしました。

当日、集合場所のホテルに着き、早速揃いの衣裳に着付けてもらった。続いて、交流会での自己紹介と阿波写楽連の模範演技、坊主頭の子供の踊りは独特の雰囲気があって、踊り手の個性がこんなにも表現されることを始めて知った。練習では、個別の指導で、基本の動きは間もなくこなせるようになった。軽食を摂ったあと、いよいよ本番の市役所前演舞場。他の連のカラフルな衣裳を見るだけでも価値があると思っっているうち、間もなく出番となった。男の踊り手が少なく、私のところは横の列が組めず、孤軍奮闘状態。また、前列との間隔が開き気味になったことに悔いが残る。しかし、阿波踊りの熱気というか狂乱というか喜びを実感したのは街角の輪踊りである。阿波写楽連の神髄と思える男衆の踊りも良かったが、やはり、見る阿呆より踊る阿呆。「合併症になら連」の仲間で作る、街角踊り。誰に見せたいわけでもなく、「鳴り物」のアップテンポに変化するリズムに合わせ、狂喜乱舞。流れ落ちる汗も踊る喜びには勝てない。この時間がもっと長く続いて欲しいと願った。エネルギーがあふれていた頃を思い出させて貰えたことに感謝で一杯。

この日のために、あれこれ準備していただいたスタッフの皆さんと、初めての私を快く受け入れていただいた会長さんご夫妻、合併症になら連の皆さん有難うございました。

最後に、阿波踊りへの参加を勧めると共に、私の体力を心配し、事前にスクワットを勧めるなど、気配りいただいたジムの健康運動指導士さんに心からお礼申し上げます。(上田 幸男)

楽しかった阿波踊り



本郷 民子
健康運動指導士
(埼玉県 上尾市)

8月11日早朝、予想以上の被害をもたらした静岡震度6弱の大地震。東名高速道路通行止めとの情報を受け、夜行バスを手配していた私は急遽、新幹線を乗り継いで徳島入りとなりました。

今年で2回目の参加でしたが、今回初参加の方が多くとお聞きし、連の先頭で踊った私は、少しでも皆さんのお手本になれるようにただそればかりを考えて市役所前演舞場に向かいました。本番では、挙げている両腕に鉛でもついているのかと思うほどのキツさでしたが、反面、手が届く位の距離まで身を乗り出して見てくれている観客席の人達と一体になり、笑顔を振りまく余裕もありました。又、街角踊りでは緊張感が取れたせいか、周りを気にすることなく、体全体で阿波踊りを楽しむことができました。

昨年は、お客様感覚で参加した私でしたが、今年は当日スタッフとしてお手伝いさせていただくなか、会長の西村さんをはじめ、事務局や関係者の方々の準備の大変さやご苦労、またその1つ1つの作業においての温かいお心遣いを感じました。今年も「合併症になら連」阿波踊りの会に参加させていただいた事に、感謝、感謝です。ありがとうございました。

そしてまた来年もよろしくお祈いします。(本郷 民子)



感動した阿波踊り



有田 恵知子
(滋賀県 大津市)

初めて参加させていただき、本当に感動しました。小学校2年生の男の子の踊りすごい、感動して涙がでそうになりました。初めてなのに本当によくしていただき、久しぶりに人情味を身にしみて感じました。来年も、是非是非もう少し上手になり、元気で参加したいと思っています。その時はよろしくお願い致します。その夜は、感動してなかなか眠れなくて幸せな一夜でした。もう少し長く踊りたい気分でした。人に見られて踊るのは最高の気分です。私は高知ですけど「よさこい」より「阿波踊り」の方が好きです。これからもよろしくお願い致します。阿波踊り、全国に広まるとよいですね。皆さん、お体に気をつけて頑張ってください。来年も楽しみに楽しみにしています。これからも宜しくお願いします。(有田 恵知子)



「合併症になら連」に参加して

人生で初めての阿波踊りでした。徳島に生まれ、阿波踊りと一緒に育った「連」の皆さんを少しうらやましく思いました。そこには、失われようとしている大切な文化を感じました。大人は子供にその経験を伝えることで心地よい地域文化が伝承されながら、子供は若者に、若者は大人へと育つことができた社会システムがおかしくなっている昨今において、「連」の皆さんには疑いなく「伝承」が機能していると思えました。その中心が姓億さんですね。後を継がれた左東さんには恋してしまいました。阿波踊りを一度楽しめる機会があれば、徳島の皆さんと同じスピリッツを思い出すことができ、日本・世界の暗雲を振り払うことができるかも！私は経験させていただきました。

勇気を持って子供や若者に伝えたいと思います。有難うございました。(長澤 良行)



長澤 良行
(大阪府 大阪市)

第 8 回糖尿病で「合併症になら連」に参加して



井上 悦子 井上 延幸
看護師
(兵庫県 神戸市)

今回は出発からハプニングがおこりました。「8時40分発の2号車は遅れますのでお待ち下さい」とのアナウンスから15分たっても案内がなく、受付に聞きにいくと「もう出ましたよ」とあっさりいわれ、真面目に待っていた3人は怒り心頭、交渉の結果やっと1時間遅れのバスで到着しました。ヤレヤレ。参加メンバーは新人が多いと聞き、少し心配しましたが、ビデオ係りの主人の話では「女性群はよく揃って美しかったと、男踊りは・・・」。今年も市役所前で昨年と同じく、俳優の「阿藤快さん」にお会いし、「ご縁がありますね」と握手をし写真を撮っていただきました。次の街角踊りは初めてでこんなに大勢の

「連」が所狭しと「ぞめき」の音も激しく乱舞されているのに驚きました。踊った後のビールのおいしさは最高で「南京玉すだれ」も大変楽しく座を盛り上げてくださいました。有難うございました。又、来年元気でお逢いしましょう。主人よりビデオが故障して、今年は新しく購入したのですが今ひとつ使い方がわからず、今回はうまく撮れていません。お許し下さいとのことです。(井上 延幸 悦子)



糖尿病で「合併症になら連」に参加して



松本 一美
看護師
(大阪府 豊中市)

阿波踊りで盛り上がる徳島は、「町中が踊っている」と感じがしました。演舞場では、華やかな衣裳や軽快なお囃子と共に人々の笑顔があふれている。俄仕込みの私もその一員であるがことが嬉しく、わくわくする緊張感は何ともいえない心地よさでした。

いざ自分達の出番になると練習中に教わったことを思い巡らせながら、ただただ「イチニ・イチニ」とリズムを取って踊るのが精一杯でした。それでも何とか踊り終え、声を掛け合って喜び合いました。その日に初めて会った人なのにあっという間に一体感が得られる。とても不思議で新鮮な感覚でした。これも阿波踊りの魅力なのでしょうね。

日頃は仕事に明け暮れている私にとって、忘れていた感覚を呼び戻してくれた1日でした。暑いし足や腕が疲れはしましたが・・・。今回の収穫はこれだけではありません。「合併症になら連」を結成された栄養士の皆さんの健康管理にかける情熱も初めて知りました。又、阿波写楽連の皆さんに踊りを教わる中で、単に恒例行事の1つではない「阿波踊り」に対する深い想いを(ほんの少しとは思いますが)知ることができました。

阿波踊りは、理屈抜きで愉しむのですが、根底には人との繋がりや郷土の誇りや、各々の「連」がもっている思い主張する何かが込められているような気がしました。

次は、健康管理に関わる一人として、「合併症になら連」に参加しようと思います。このような企画の運営に当たっては西村会長をはじめ、様々な方がサポートや土台作りに奔走されたとも伺いました。私はただ、参加させていただいただけですが、楽しく多くのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。(松本 一美)

「合併症になら連」の阿波踊りに参加して



水野 美子
(大阪府 高槻市)

新谷佳子さん、西村さんご夫妻のお誘いで初めて参加しました。大いに楽しみました。阿波写楽連のご指導つきという豪勢な催しに終始圧倒されながらも、皆様の和気あいあいとした雰囲気とマナーのよさに、幸せなひと時を過ごすことができました。普段、無口な夫との物静かな暮らしの私にとって、盆と正月が一緒に来た！という感じでした。お借りした衣裳の引き取りに夜遅くまで応じておられた西村さんに頭が下がりました。いっぼうで地元徳島の方のご参加は心強く、神戸っ子の私でもこの日ばかりは気分は阿波っ子？でした。「私、阿波踊りに行ってきてん」というと「踊ったん？」と訊かれます。「当たり前やん、チャンと連からお人が来られて、半日、衣裳を着て編み笠かぶって、踊りの指導を受けて」私の自慢話が一つ増えました。ありがとうございました。またよろしく。(水野 美子)



糖尿病で「合併症になら連」阿波踊り大会に参加して



青山 泰子
(兵庫県 神戸市)

今回、依藤副会長のお誘いを受けて少々不安が過ぎる中、友人を誘い阿波踊りへ参加しました。

8月に入り台風到来の徳島市の被害ニュースで開催を心配していました。ところが参加当日は今までの不安、心配も一掃されるような真夏日。サア！踊らにゃそんそんと心気一転というところでしょうか。「阿波写楽連」の方々の猛特訓。足の動きはともかく、手を挙げたままの振りは重労働。その厳しい練習のお陰で市役所前演舞場での本番は声をだしての軽やかな踊り。少々物足りなさを感じつつ次の街角踊りへの期待をかけ移動。出発前との大きな心境の変化。すべての感情を包み込み、今この一瞬を踊りこむ阿波踊りの魅力。今夏は糖尿病患者の方々の合併症予防を目指した意義深い「連」に参加させていただくことにより、貴重な体験を得たことに感謝しお礼申し上げます。(青山 泰子)



第8回糖尿病で「合併症になら連」阿波踊り大会に参加して



中谷 玲子
(大阪府 東大阪市)

小説「眉山」から、映画「眉山」ときて、阿波踊りの総踊りのシーンが目の奥に焼きついていて、思いがけず見るだけでなく連に参加させていただいて踊れるチャンスが・・・！

いつも、いつでもステキな出会いと楽しいこと、感動を求める私の好奇心のアンテナが「ピッピッ」と、これは参加するしかありません。そして、初めて訪れた徳島の街は踊り一色。衣裳を着せていただくとそこはそれなりに、踊り手らしき私が。おまけに手取り足取りきちんと踊りの手ほどきをしていただくと、さらにそれらしく・・・。いざ市役所前演舞場へ、「そう！これこれ！」興奮は頂点です。多くの方々のご努力とご支援と楽しみを共有したいという想いが形になって、私を皆さんと出会わせてくださいました。この感動がどんどん広がりますように、「同じアホなら踊らにゃソソソ！」です。(中谷 玲子)

合併症になら連に参加して



平家 嘉人 (埼玉県 さいたま市) 戎 喜久恵 (徳島県 徳島市)

今年の阿波踊りは孫の平家嘉人が急遽参加することになり、うれしくもあり、心配もあり、いままでとは違っておばあちゃんの立場での参加になりました。嘉人も皆様に何かとお心遣いをいただき意欲的に参加することができ良い思い出になったようです。ありがとうございました。

私は3回目の参加でしたがなかなか“品よく”いなくて、そこで今年は最後まで手を挙げたままで頑張ることを目標にしました。今年もご遠路徳島にお越し下さった皆様、阿波写楽連の左東連長様、西村会長様、依藤副会長様、山田副会長様の熱意あふれるお仕事ぶりに感動しとても元気をいただきました。

近藤のぶ子様、河面ユキ子様、玉すだれの皆様、すてきなお友達に恵まれてうれしい夏が終わりました。皆様に感謝！です。また来年お会いいたしましょう。(戎 喜久恵)



「阿波踊り」と私



近藤 のぶ子 (大阪府 大阪市)

「阿波踊り」のことを初めて耳にしたのは44年前、私がフランスのリール大学の留学生だった時に、徳島大学医学部から法医学の研究で、やはりリール大学にこられていらした四宮孝昭、薫先生ご夫妻からです。「秋刀魚にスダチをたっぷりかけて、食べたいなー」そんな言葉のあとに、必ず「阿波踊りを踊りに徳島へぜひいらっしゃい」といつもつけ加えられるのでした。その後の私は、仕事と家庭生活に追われるままに、またたく間に年月は過ぎていってしまいました。四宮先生はその後、愛媛大学に移られ、お庭に実ったというスダチを毎年沢山送ってくださり、亡き夫はスダチ酒を楽しんだものでした。初めて阿波踊りに参加できたのは、今から十数年前、お互い既に初老、それでも先生ご夫妻は松山からわざわざ駆けつけてくださり、観光客の為の「にわか連」で踊ることができました。真夏の猛暑と人混みの中汗ぐっしょりになって、足が痛くて痛くて足袋のままホテルまで足をひきずってやっとたどり着けたのに、それなのにあの爽快感と達成感、貴重な思い出です。

そして昨年、神戸女子大学で同僚だった徳島在住の戎喜久恵先生のお誘いに乗って、「糖尿病で合併症になら連」に初めて参加いたしました。「阿波写楽連」の方々の踊りの見事さにまずびっくり仰天、そして更に懇切丁寧なご指導に驚き病みつきしました。そして今年も。体力に自信のないくせに、更にその上私の熱弁宣伝の口車に乗せられた「玉すだれ」の仲間達まで誘って。厚かましいことです。今年も四宮先生から、とりたての濃緑色のプチプチスダチが沢山送られてきました。先生はフランス政府からレジオン・ドヌール勲章を何年前にいただかれました。先生ご夫妻は徳島出身なのに、よそ者の私がこんなに阿波踊りに夢中だなんておかしなことです。老後の生き延び作戦と致しましょうか。

私達、昭和という激動の時代に生きた世代にとって、子供の頃戦争のため、疎開や集団疎開をさせられ、ふる里を持たない都会の住民にとって、一年に一度、亡き人々を供養する為に始まったという阿波踊りに参加させていただけるのは、ふる里に帰る気持ちになれる機会を与えられることなのです。

この様な機会をお作り下さった西村登喜子会長をはじめ、縁の下の力持ちになって支えてくださる地元の方々に、心より感謝致しております。アホになれて良かったと思っております。(近藤のぶ子)

「連」に参加して



笹倉 一恵
管理栄養士
(兵庫県 西脇市)

このたび、初めて阿波踊りを体験しました。糖尿病で合併症になら連は、管理栄養士が中心となり立ち上げられた会だそうです。私は、家族が糖尿病療養中のため興味をもちました。知人から、本場の阿波踊りは迫力があってよい！と伺っており友人を誘って参加させて頂きました。当日は、朝の8時半に神戸の三宮に集合し11時にホテルに着きました。お蔭様で交通渋滞も無く早めに着きました。到着順に着付けをし会場へ集まりました。開会の挨拶・各参加者の自己紹介等を済ませ、「阿波写楽連」の本場の踊りの見物へと……。何だか慌しく過ぎていきました。お手本の後は、自分達の練習が待っているとあって目にしっかり焼き付けました。

踊りは、両手や腕をぴんと上に挙げて独特の足運びで、見ているだけでもかなりエネルギーを使いそうだと感じました。栈敷の中を踊りきれぬか心配でしたが、実際にやってみると数時間の練習も意外とやり通せ、市役所前演舞場と街角踊りで20時まで踊り切りました。移動時には、観光客の人々に写真を撮られたり、応援エールを送られたりといった交流がありました。初心者の方でも、衣裳を付けていると現地の人になった気分でした。活気ある他県の方々とお知り合いになり、良い刺激になりました。周囲には糖尿病の方がいらっしゃらず、患者家族としての情報交換はできませんでしたが、縁があって皆さんと汗を流せて楽しかったです。今回の旅を振り返ると、練習→演舞場の踊り→懇親会というスケジュールで大変充実した1泊2日でした。

天候に恵まれ、帰りには観光もでき、眉山・映画のロケ地等を巡りました。阿波踊り会館では歴史も学べ、今回のおさらいとなりました。

世話役の方々は1年かけて準備なさり、毎回趣向を変えられるとの事です。ぜひ元気なうちに家族を誘ってまた参加できたらとおもっています。

お世話になりました。皆様ありがとうございました。(笹倉 一恵)



阿波踊り大会に参加して



三島 奈緒子
管理栄養士
(滋賀県 大津市)

今回、友人の紹介で初めて参加しました。阿波踊りを見に来たこともなかったので実際に踊れると聞きとても楽しみにしながら参加しました。

衣裳に着替えると、素人の私でも何だか上手に踊れるような気がしてきたのですが踊ってみるととても難しく、手と足が思うように動かず苦労しました。阿波写楽連の皆さんに丁寧に教えていただき、何度も体を動かしているとだんだんコツがつかめ、周りの皆さんとお互いに見合わせて確認し合いながら楽しく練習ができました。連になって皆で踊ってみると何だかそれらしくなり、皆の動きが揃ってきて素人ながらに「カッコよく踊れてる！！」と嬉しくなりました。

市役所前演舞場では本当に緊張して、手と足がわけわからなくなってしまい上手く踊れなかったのですが、そのあとの街角おどりではヘタッピなことも忘れてただただ楽しんで踊れたのでよかったです。

たくさんの先輩方と楽しい夏の夜を過ごせました。ぜひ、また参加したいと思います。(三島 奈緒子)

年に一度、集まる阿呆仲間



藤本 裕之
(兵庫県 神戸市)

西村会長に誘われるまま、今回で二度目の参加となるのですが、本当に楽しい！阿波写楽連の方に衣裳を着せていただき、去年は演舞場で緊張の中、「踊る阿呆」となれた事だけに満足していましたが、今年は気持ちに少し余裕ができたのか、栈敷席から写真を撮っている方にポーズまで出来るようになった自分にびっくりしています。しかし栈敷席の方に少しでも良い型を見ていただければと思うものの、体は全く反応できず不快感を与えているのでは？とさえ思っていました。恥ずかしさも忘れて踊ってみれば、これほど充実した時間を過ごせたことは本当に感激です。この素晴らしい企画に多くの準備や手配をしていただいた事務局や関係者の方々に改めて感謝します。本当にありがとうございました。

又、前回の懇親会で拝見した阿波写楽連の姓億会長のユニークな写楽踊りが昨年12月以降はもう見ることはできないと思っていましたが、左東連長の演技披露であの写楽踊りが再現された時は心に感動を憶えました。姓億さんとは、残念ながら直接お話しをすることはできなかったのですがこうして縁ある人達が、来年も同じ場所に集えるように健康に留意して、また一緒に踊りましょう。(藤本 裕之)



糖尿病で「合併症になら連」阿波踊り大会に参加して



成枝 純一 成枝 悦子
(兵庫県 芦屋市)

先日は夫婦で初参加させていただき緊張いたしました。踊りをご指導くださった阿波写楽連の方々の熱いご指導で、皆様の足をひっぱることなくなんとか踊れるのではないかとチョッピリ自信がついてきました。本番の市役所前演舞場では思ったとおり上々の出来で楽しみながら踊らせていただきました。私は3列目だったので前で踊っている熟練者の手足を見ながら乱れないよう合わせて踊れたのが幸いです。これも西村様のご配慮の賜ものと感謝しております。主人は腰痛で踊ることができませんでしたが、来年は踊ると張り切っておりますよ。帰宅後も2・3日興奮していました。

街のエネルギーと皆様のエネルギーに圧倒された2日間でした。又の参加に期待したい思いで胸一杯です。来年が待ち遠しいです。最後にスケジュールといい宿泊のホテルといい完璧で大満足しております。地元の山田眼科様には大変お世話になったこと感謝申し上げます。

来年が一日千秋の思いでお待ちしております。皆様のお元気な顔を拝見できる日を楽しみに神戸の地よりお祈りしております(成枝 純一・悦子)



第8回糖尿病で「合併症になら連」阿波踊り大会を終えて



依藤津世子(副会長)
管理栄養士 健康運動指導士
(兵庫県 神戸市)

姓億さんを偲ぶ第8回阿波踊りの会が終わりました。

400年の歴史のある阿波踊りを1日にしてマスターし、楽しんで踊れるなんてまるで夢の舞台です。日々生活の中で、こんなにも夢中になれることなんてあるのでしょうか。

これが、私たち連の目指す糖尿病で合併症にならないための普及活動の原動力ではないかと思います。

若さ溢れる阿波写楽の連長さんの特訓のお陰でみんなの心が一つになりました。年を重ねる毎に着装も上手くなり、踊りまでレベルアップした気がしました。その証しに今年は、踊りが上手と徳島市観光協会より「はなまる」をいただきました。(すごい!!)きっと姓億さんが天国から見守ってくださったお陰かと思います。嬉しい限りです。

毎回参加していますが、毎年楽しいサプライズがあります。来年はどんなサプライズが起こるのでしょうか、是非確かめに来年も参加してみませんか。お待ちしております。(依藤 津世子)

第8回糖尿病で「合併症になら連」阿波踊り大会を終えて



山田多佳子(副会長)
地元医療機関
(徳島市)

2000年2月に徳島新聞で「糖尿病で合併症になら連」の記事を拝見し、西村さんに初めてご連絡を差し上げてから、早、10回目の夏を迎えました。2回の中断を経て、無事第8回阿波踊りの会を終了することができ感無量です。10回、15回と続けるので、元気でいらしてくださいね、とお願いをしていた姓億さんが昨年末お亡くなりになり、大きな支えを失ったような、心の中に大きな穴がぽっかり空いたような気持ちでした。果たして第8回が実施できるのだろうかと不安でした。西村さんを始めとする会の方々のご努力と、阿波写楽の皆さんの若い力が結集して、すばらしい会になりほっと致しました。

天国の姓億さんもきっと喜んでくださっていることと思います。今年は、市役所前演舞場に加えて、東新町商店街のアーケードの中を四国放送の保岡アナウンサーも加わり周りを気にせず自由に自分のペースで踊ることが出来、参加者の皆様も本当の「踊る阿呆」が体験できたのではないのでしょうか。今年を新たな出発点として、この踊りの会が、益々発展し続いていくことを願っています。

来年も皆様のご来県を心よりお待ちしております。(山田 多佳子)

ご支援いただいた皆様

第8回糖尿病で「合併症になら連」阿波踊り大会にご賛同・ご協賛いただきました
企業・団体様に心より感謝いたします。ありがとうございました。

城南公園内科(徳島市)
キッセイ薬品工業株式会社
医療法人財団清良会書写病院(姫路市)
株式会社三和化学研究所
NPOシニア会

山田眼科醫院(徳島市)
糖尿病ネットワーク
エンジョイツァークラブ
野澤産業株式会社
サラヤ株式会社
サラヤ健康家族 kenkoukazoku.net

第8回大会の1日



交流会風景

8月12日(水)

- 12:30 受付開始「ホテルサンシャイン徳島アネックス」
新館3階ホール
受付後、阿波踊りの衣裳に着替える(専門家による着付け)
- 13:30 新館7階ホールに集合
交流会
「阿波写楽連」連長 ご挨拶
「阿波写楽連」の模範踊りを見物
「阿波写楽連」のご指導で阿波踊りの練習
軽食をいただく
全員で記念撮影
- 17:00 出陣式
- 17:40 市役所前演舞場へホテルのバスで移動
- 18:00 市役所前演舞場で待機(他の連と交流)
- 18:40 有名連パレードのあと、「合併症になら連」の踊りスタート
東新町アーケードで2回目の踊りを披露
踊り終えたのち、ホテルに徒歩で戻る
- 20:10 ホテルに到着次第、3階宴会場で懇親会開始
「阿波写楽連」左東連長の講評・ご挨拶
参加者同士の交流
- 22:00 解散 お疲れ様でした
解散後、町中へ繰り出し、見る阿呆も楽しみました



情報コーナー



阿波写楽連の踊り



鳴り物の皆様



市役所前演舞場



阿波写楽連長のご挨拶

8月13日(木)

- 7:00 順次、朝食をすませる
- 9:00 希望者のみホテルのバスでJR徳島駅までお送りします
- 10:00 チェックアウト 近くに阿波踊り会館・眉山など見所一杯



懇親会風景



8月13日徳島新聞朝刊



余興 南京玉すだれ



全員で阿波踊り



阿波写楽連の皆様と記念写真



女性の練習風景



男声の練習風景



本番に向けての踊り練習



市役所前演舞場

糖尿病で「合併症になら連」阿波踊りの会事務局
 〒105-0003 東京都港区西新橋 2-8-11 第7 東洋海事ビル 8階
 TEL 03 5521 0890 FAX 03 5521-2883
 担当 : 吉田ゆかり 草野佳壽子

糖尿病で「合併症になら連」阿波踊りの会 会則

糖尿病で「合併症になら連」阿波踊りの会は、2000年8月に第1回の阿波踊り大会を実行して以来、このイベントを継続して行っています。参加を希望する人の交流の場とするため、2001年1月1日より会員組織をスタートさせ、現在に至っています。誰でも自由に入会できます。会則をご覧になって、ぜひご参加いただけますようお願い申し上げます。また、毎年行われる阿波踊りは、会員でなくても参加いただけます。

役員

会長 西村登喜子（埼玉県上尾市）
副会長 山田多佳子（徳島市 地元代表）
副会長 依藤津世子（神戸市 医療スタッフ代表）
顧問 左東久史（徳島市「阿波写楽連」連長）

会則

第一条（目的）

糖尿病で「合併症になら連」阿波踊りの会は、阿波踊りを通じて親睦・交流を深めることにより、糖尿病がある日常生活を楽しみ、豊かな人生を送るための会とする。

第二条（会員）

正会員：糖尿病に関わりのある患者・家族・医療スタッフ及び「合併症になら連」の趣旨に賛同し、規定の会費をおさめた人。

賛助会員：「合併症になら連」の趣旨に賛同する団体・企業で、賛助会費をおさめた人。

第三条（運営）

「合併症になら連」は、選出された役員が中心になって企画し、構成会員が積極的に参加することにより運営する。

第四条（役員）

「合併症になら連」には、次の役員を定め、任期を一年とし再任を妨げない。
会長（1人）副会長（2人）会計監査（1人）プロジェクトスタッフ（若干名）
上記役員は、会員の中から選出する。

第五条（顧問）

「合併症になら連」の活動の趣旨に賛同し、助言・ご協力をいただく顧問を定める。

第六条（事務局）

「合併症になら連」の事務局は株式会社創新社内におき、株式会社創新社は会の運営に必要な事務処理を代行する。

第七条（会費・会計年度）

1. 会員は「合併症になら連」に会費を支払う
2. 本会の年会費は次の通りとする。
正会員 3000円、家族会員 5000円 / 2人
賛助会員 10,000円 / 1口。
3. 会費は連絡・通信費など「合併症になら連」の運営上必要な経費に充当する。
4. 会計年度は、1月1日から12月31日とし、年度毎の会費の用途についての会計報告を会報にて行う。

第八条（「合併症になら連」の活動内容）

1. 阿波踊りへの参加（8月）
2. 交流パーティ（8月）
3. 会報の発行
4. その他 会の目的に沿った活動

第九条（会員の特典）

- ・会報の受け取り（年2回）
- ・インターネットによる情報発信
- ・会員は「合併症になら連」が企画する各行事に参加できる

第十条（会則の改定）

当会則は、役員会あるいは事務局が必要と認められた時、随時改定することができる。
改訂された会則は速やかに会員に周知することとする。

附則

当会則は2001年1月1日に制定され、当日より施行する。

糖尿病で「合併症になら連」阿波踊りの会事務局

（株）創新社内

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル8階

TEL 03-5521-2881 FAX 03-5521-2883

E-mail : y-yoshida@abox3.so-net.ne.jp



糖尿病で合併症になり連